旬のひと

工学博士
月﨑 竜童さん

静岡の野山で遊んだ経験が科学者としての原点です。

太陽系の小惑星イトカワから岩石の微粒子を地球に持ち帰り、世界を熱狂させた探査機「はやぶさ」。「はやぶさ2」は、その後継機として2020年末の帰還を予定している。月﨑竜童さんは、宇宙航空開発機構（JAXA）で、このプロジェクトに参画。イオンエンジンの推力を向上させる研究に携わっている。

そんな月﨑さんが宇宙への憧れを抱いたのは宇宙飛行士・毛利衛さんのニュースに触れた小学生の頃。静岡市の野山を駆け回り、ミニ四駆やラジコンに興じた少年時代を経て、宇宙に関する仕事に就きたいと決意する。「子どもの頃からモノづくりが好きでした。その意味で、プラモデルの聖地と言われる静岡市で生まれ育ったことが宇宙開発の道へ進む素地になっています」と振り返る。

マイクロ波プラズマ診断法という斬新な発想で従来の問題点をあぶり出し、結果的にイオンエンジンの推力を40%も向上させた月﨑さんは、作業や思考に行き詰まると趣味のランニングやサッカーで気分転換を図るという。これも静岡にいた頃に始めたものだ。「でも、本当に静岡出身で良かったと思うのは、豊かな自然の中で川遊びや虫取りをしたこと。宇宙も自然ですから、その美しさや不思議さに惹かれた経験は、科学者としての原点になっています」と月﨑さんは語る。

宇宙工学の分野で世界的なホープと目されている月﨑さんの研究は、「はやぶさ2」をはじめ、後続の宇宙ミッションに貢献するだけでなく、次代の子どもたちに夢を与えるという点で無限大の可能性を秘めている。

イオンエンジンの研究を進める月﨑さん。将来の目標は木星まで飛ばすことができる探査機を手がけること。

日本の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な学生を顕彰する「日本学術振興会 育志賞」を平成24年度に受賞した。

Profile

月﨑竜童（つきさき・りゅうどう）
1984年静岡市生まれ。静岡高校卒業後、2013年東京大学大学院にて博士号（工学）取得。日本学術振興会特別研究員を経て、JAXA宇宙科学研究所助教（現職）。専門分野は電気推進、プラズマ。趣味はフットボールとランニング。